特定非営利活動法人SEEDS Asia

2018年度
活動報告

プロジェクト実績

ミャンマー

ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業
学校における津波の防災啓発と避難訓練事業
気候変動と災害リスクの削減にむけたプロジェクト

フィリピン

セブ州における学校の防災管理推進支援事業

インド

バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進支援事業

バングラデシュ

バングラデシュにおける都市部のコミュニティ防災力向上支援事業

日本

復興スタディツアー

活動実績

講師実績一覧
成果物一覧

ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業

<ミャンマー>

完成したナベーゴン小学校兼シェルターの外観

村内の全世帯の詳細をカードにして、ゲームにしながら
避難所運営について協議・研修を実施している様子

- 期　　間：　2018年3月～2019年3月
- パートナー：　ミャンマー工学連盟（Fed.MES）
- 資金提供：　外務省　日本NGO連携無償資金協力、日本とミャンマー国内の一般市民
- 受益対象者：　エヤワディ地域ヒンタダ地区ナベーゴン村の学校教員・生徒、住民

背景・課題：

エヤワディ地域ヒンタダ地区は、ミャンマーの主要河川エヤワディ河が分岐するデルタ地域の起点にあり、洪水の常襲地となっています。2015年の大洪水では、85,400名が被災し(ミャンマー情報管理ユニット、2015年)、過去にも堤防の決壊や越水で幾度なく大規模な洪水や浸食などの水災害に見舞われてきました。2016年にSEEDS Asiaとヤンゴン工科大学が共同で実施した湾岸地域の気候変動災害リスクについての調査では、雨季には区内の251小・中・高校(当時)の内、21%が一時的に閉鎖していることや、安全な避難場所が無いことが明らかになりました。SEEDS Asiaは学校が老朽化し、雨季には閉鎖せざるを得ない学校2校を対象に、3カ年事業を通じて、教育と地域の防災拠点となる学校兼シェルターを建設し、避難所としての活用を含めた地域の人材育成をはじめとしたハードとソフト双方を組み合わせた包括的な学校防災事業を推進しています。

2018年度の実績：

SEEDS Asiaは2018年度にはナベーゴン村の小学校を避難所機能も備えた学校兼シェルターとして再建し、住民や学校関係者と災害対応に関わる研修11種を実施しました。41名の教員と地域住民で構成される村の防災委員会が組成され、同研修には同委員会メンバー延べ333名が参加しました。ヒンタダ県のミャンマー赤十字ボランティア、農業灌漑局職員、消防局職員等が、災害対応に関わる各分野の講師として参加いただくことで、災害対応能力向上だけでなく、対象村とのネットワークが構築されました。また、同学校には丹波市から人口減少等の要因により不要になった机と椅子100セット、黒板5枚が寄贈され、校舎だけでなく安全な家具で児童が学ぶことのできる環境が整備されました。12月に実施された学校兼シェルターの引き渡し式典(520名参加)では、ヒンタダ地区の行政長の他、教育長、校長の他、児童代表からの挨拶があり「新しい学校になってやっと学校が安心できる場所になりました。勉強に集中できること、洪水の時には避難もできることが嬉しいです」と元気に挨拶がありました。また、本事業の成果を全国に展開すべく、国レベルワークショップにて関係省庁、防災関連機関　計76名にも共有しました。尚、学校に付設されたスロープは全額寄付により建設されており、ミャンマーで初のスロープ付き学校兼シェルターとして、けが人の輸送や移動が困難な方のアクセス確保が可能になりました。

学校における津波の防災啓発と避難訓練事業

＜ミャンマー＞

学校から避難所として特定された近隣の寺院に避難する
ラプタ地区3マイル高等学校の生徒たち

学んだ応急処置の実践訓練をおこなう
ラプタ第二高等学校の生徒と教員

- 期　　間：　2017年12月～2018年10月
- パートナー：　ミャンマー工学連盟（Fed.MES）、 国連開発計画（UNDP）
- 資金提供：　国連開発計画（UNDP）
- 受益対象者：　ヤンゴン地域とエヤワディ地域の学校教員と児童・生徒

背景・課題：

2,000キロに及ぶ海岸線と広大なデルタ地帯を持つミャンマーは、津波被害の想定人口が67万人にものぼり、世界第7位のリスク国と言われています(Prevention Web, 2013)。SEEDS Asiaは国連開発計画（UNDP）が実施している「学校における津波避難訓練事業」のミャンマーにおけるプログラムのデザイン、実施、評価を担当し、災害リスク情報の整備・分析と避難訓練等の津波啓発活動を2017年12月から開始しました。この事業では、ミャンマー国内の５校で、津波避難の計画立案、訓練を実施しています。同プログラムは東日本大震災の教訓を伝えるべく日本政府が支援をしており、アジア太平洋地域の18か国で展開されています。

2018年度の実績：

SEEDS AsiaはUNDPと共に、2018年５月15日、16日、22日にかけて、ラプタ地区の第二高等学校と3マイル高等学校の2校、そしてボガレ地区のチョンニョンジークンティーチャウン村準高等学校で、津波防災ワークショップ及び避難訓練を行いました。選定された2地区の3校は、エヤワディ地域に位置しサイクロン・ナルギスの被災地ではあるものの、津波の避難訓練が実施されたことが無かったため、非常に高い関心をもって児童・生徒268名、教員23名が参加しました。さらに、社会福祉救済復興省、教育省、保健省、ミャンマー工学連盟(ミャンマー地震委員会含む)、ミャンマー気象水門局、ミャンマー赤十字などの16名もオブザーバーとして出席しました。ワークショップでは、地震や津波が発生する仕組みに加えて、ミャンマーの津波リスク、東日本大震災の教訓についてもプレゼンテーションを行った上で避難時に学校防災委員会の誰がいつ何をすべきかについて計画（SOP）を策定し、マグニチュード8.0の地震、津波到達まで30分というシナリオのもとで避難訓練を実施しました。この地域は2013年から2016年までのJICA草の根技術協力事業の対象地であったことから、既に学校の防災委員会が組成されており、応急処置についても学んでいたため、フォローアップトレーニングにもなりました。参加したラプタ地区の教員は「2004年の津波については被災した友人から話を聞いたことがあった。でも実際に津波がここに来た時、何をすればよいのかを避難訓練によってやっと理解できたと思う。また、避難訓練をやってみると、道路の状況が劣悪で、児童が避難している様子を見ながら多くの課題を発見することができた」と振り返っていました。また、プログラムの前後に実施したラプタ地区での調査では、「地震や津波に対する地域の脆弱性とリスクについて理解できる」と回答した教員が実施前の30%から実施後には100%に増加するなど、事業の明らかな有効性が確認できました。

気候変動と災害リスクの削減にむけたプロジェクト

＜ミャンマー＞

ヒンタダ県インガプ地区の浸食の様子

当プロジェクトで開発したマングローブによる浸食を防ぐ効果について学ぶ紙芝居を紹介するスタッフ

- 期　　間：　2017年12月～2018年6月
- パートナー：　ミャンマー工学連盟（Fed.MES）
- 資金提供：　ケバンガサン大学東南アジア防災研究所(Southeast Asia Disaster Prevention Institute：SEADPRI)
- 受益対象者：　エヤワディ地域ヒンタダ県インガプ地区の地域住民・学校

背景・課題：

ミャンマーは、地理的・地形的要因から自然災害に脆弱な環境にあり、国連の災害リスクモデルの指標(国連人道問題調整事務所、 2013)、並びにGermanwatch社が発表したグローバル気候指標(2017)において、アジアの中で最も自然災害のリスクが高い国と認識されています。中でも、2008年に当該国に襲来したサイクロン・ナルギスでは約14万人が死亡・行方不明となる甚大な被害となった他、2015年以降、各地で洪水や干ばつ、浸食や土砂災害が発生する等、気候変動の影響によってスロー・オンセットと呼ばれるゆっくりと忍び寄る災害が増加しています。SEEDS Asiaはマレーシアのケバンガサン大学東南アジア防災研究所(Southeast Asia Disaster Prevention Institute：SEADPRI)と連携し、「気候変動と災害リスクと被害に関する研究事業」の一環としてミャンマーデルタ地域に於ける浸食の現状についての調査と教育プログラムの開発を担当しました。同事業はアジア太平洋州ネットワーク（APN）として、アジア太平洋州の内、マレーシア、ベトナム、フィリピン、カンボジア、ミャンマー、日本の6か国で展開されています。

2018年度の実績：

SEEDS Asiaは、ヒンタダ県の浸食や豪雨被害の影響についてヒンタダ県行政局、気象水門局からのデータを長期に亘って入手し、過去の被害についての文献研究やインタビューを重ねました。こうしたデータを踏まえ、浸食被害を防ぐための教材を紙芝居として開発し、エヤワディ地域の中心都市であるパテインで開催されたサイクロン・ナルギスメモリアル式典の展示ブースで広くデルタ地域の住民に共有しました。さらに、6月20日、21日には、エヤワディ河沿いで浸食被害の大きいインガプ地区タタマ洲村を訪問し住民や学校への半構造化インタビューを実施し研究レポートとして纏めました。調査対象地では、12世帯の内7世帯が浸食による家屋の移動を余儀なくされており、2017年には同村住民の58%が既に移転をしていました。住民の90%が気象系災害を経験しており、命はとりとめているものの、8割が収入減に直面している現状を確認した他、こうした居住環境の悪化が若者世代の人口流出を招いており、地域の祭りや伝統行事が実施できないという状況等が把握されました。こうした災害リスクの認知のために開発した紙芝居教材を配布し、対策のための機材を提供するとともに、その使用方法についてSEEDS Asiaから研修を実施しました。研究レポートについては、後にケバンガサン大学東南アジア防災研究所より発行される予定です。

セブ州における学校の防災管理推進支援

<フィリピン>

国レベル中間報告会カンファレンスでスピーチする
教育省事務次官パスクワ氏

学校安全点検の様子（ダアンバンタヤン中央小学校）

- 期　　間：　2017年4月～2020年3月
- パートナー：　フィリピン国教育省、兵庫県教育委員会
- 資金提供：　JICA草の根技術協力事業　地域活性化特別枠
- 受益対象者：　フィリピン国教育省第7地方事務所及び地区事務所職員 、セブ州内の学校教員

背景・課題：

フィリピンは近年、2013年に死者6,000人を超える被害を出した台風ヨランダ（国際名：ハイエン）など、大規模災害に見舞われています。2017 年3 月に完了したJICA 草の根事業「セブ州における地域との連携による防災教育の技術移転事業」は防災教育に着目しましたが、本事業を昨年度4月から開始し、学校の管理面で災害の影響を小さくする「学校防災管理」に取組んでいます。同国教育省は、国連などが定めている「包括的学校安全の枠組み」に基づき学校防災に取組んでいますが、学校レベルでの実施・普及には時間が掛かる見込みであり、先行事業と同様に学校防災の知見を持つ兵庫県教育委員会と連携し、学校防災管理の実践モデル構築支援を進めています。同枠組みの3つの柱のうちの2つに合致する先行事業の「防災教育」と本事業の「学校防災管理」を通じ、同国学校における災害対応能力向上への相乗効果を図ります。

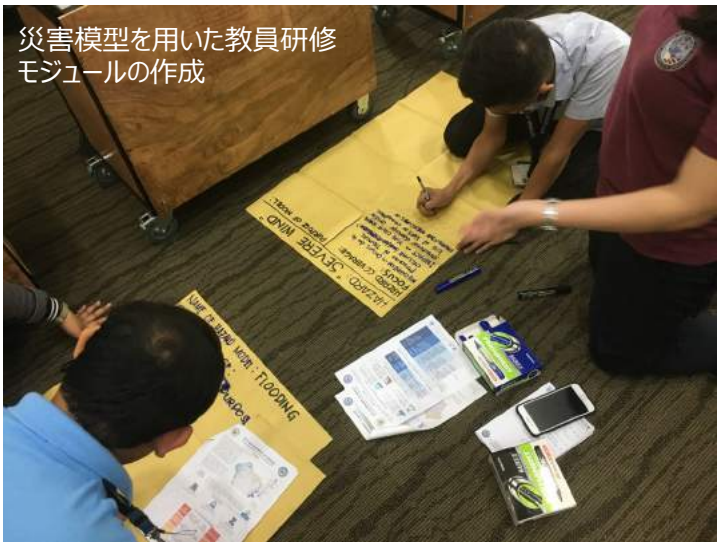
2018年度の実績：

事業2年目の本年度は、初年度に研修を受けた学校防災管理の指導員「学校防災管理指導チーム」によるパイロット校への指導を開始しました。5月に10のパイロット校の計120名の教員を対象に防災管理能力強化研修を行い、参加者からは、「常に準備が必要なことが分かった。備えと減災についての新たな知識を得ることができた。」などの感想がありました。7月には、教育省防災管理局とともにマニラ首都圏にて中間報告会カンファレンスを開催し、事業の進捗や今後の活動予定とともに、包括的学校防災についてSEEDS Asia、教育省同局、兵庫県教育委員会の震災・学校支援チーム〔EARTH〕がそれぞれ実践例や知見を全国の参加者に共有しました。続いてEARTHによる学校防災管理指導チームへの研修を実施し、被災学校支援の活動や学校防災管理推進の取組みなどについて共有した結果、チーム員から「フィリピンでもEARTHを作りたい」との意欲的な発言が聞かれました。さらに、平時の安全点検を仕組み化するため、各パイロット校で安全点検マニュアルの作成に着手しました。パイロット校と教育省地区事務所エンジニアや建築局、警察やコミュニティなど様々なステークホルダーが参加するワークショップや会議を開催し、各関係者のサポートと助言を得ながらマニュアルの初稿作成、安全点検の試行、マニュアルやチェックリストの改善を経て、3月に初版を印刷しました。また、11月からは、災害時に学校や各関係者が適切に行動を起こし学校安全を守れるよう、災害対応マニュアル確立に向けた導入会議を実施し、各防災関係者とともに互いに期待することやコミットメントを発表し合いました。

マカティ市における移動式防災教室事業

<フィリピン>

災害模型を試用するプロジェクトチームメンバー



災害模型を用いた教員研修モジュールの作成

- 期　　間：　2018年7月～2019年12月
- パートナー：　マカティ移動式防災教室プロジェクト実施チーム
- 資金提供：　アジア防災センター（日本アセアン統合基金）、寄付
- 受益対象者：　マカティ移動式防災教室プロジェクト実施チーム、マカティ市内の学校教員、子ども、地域住民

背景・課題：

フィリピンは地震、台風、火山噴火等が毎年のように発生する災害多発国です。2010年には防災法を定め、国際的な枠組に準拠した防災活動を国レベルから住民レベルまで行き届かせることを法律化しています。マニラ首都圏マカティ市は、多くの住民や市内通勤者が滞在する大都市であると同時に、市内を走る活断層や洪水を起こす川等の災害リスクを抱えています。SEEDS Asiaとマカティ市役所は、住民や若者の災害に関する知識の普及、住民の防災活動を支援・指導する人材の不足、コミュニティレベルでの防災活動が少なく、地域計画でも位置付けられていないことに着目し、ミャンマーで確立された移動式防災教室のマカティ市版の作成を目指しています。

2018年度の実績：

フィリピン人の建築専門家で災害リスク管理を研究している専門家と協議を重ね、移動式防災教室のコンテンツの1つである災害模型を作製しました。災害模型は洪水、岩石崩れ、地震、暴風といった、市内でよく起こるハザードの影響を視覚的に説明するもので、2018年度中に70%程度完成しました。また、アジア防災センターの協力のもと、日本アセアン統合基金プロジェクト「学校での防災教育の推進」事業の指導者研修（Training of Trainers：ToT）として、マカティ市内の教員研修セミナーに向けた指導員研修を実施しました。指導員として、マカティ市移動式防災教室のプロジェクト実施メンバーが招集され、マカティ市防災管理室、情報・コミュニティ広報部、都市開発部、社会福祉部、バランガイリーグ（フィリピンの最小行政単位を取りまとめる部署）、そして教育省マカティ市地区事務所の防災管理コーディネーターとともに、教員研修の進め方やターゲット日時、そして模型を用いた研修モジュールの開発に取組みました。この指導者研修では、「マカティ市役所がすでに実践している市民向け防災研修と移動式防災教室を将来的に合体させたい」、「市役所が移動式防災教室を運用する予定だが、子ども向けの移動式防災教室を優先的に進めたい」と前向きなフィードバックが聞かれました。

バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進支援事業

<インド>

本邦研修にて京都市長への表敬訪問

完成したDRRCAPの視察

- 期　　間：　2018年1月～2019年1月
- パートナー：　国家災害対応部隊（NDRF）
- 資金提供：　外務省　日本NGO連携無償資金協力
- 受益対象者：　バラナシ市民、学校教員、生徒、地域住民、行政職員

背景・課題：

インドは災害多発国の1つですが、バラナシ市はこれまで大きな災害に見舞われた経験がなく、一般市民の防災に対する意識は非常に低く、現地行政の優先順位も高くないのが現状です。一方、京都大学の調査によると、バラナシにおいて、気候変動による風水害や熱波、干ばつの発生頻度が増加しており、これが人々の生活や身体に影響を及ぼしていることが明らかになっています。また、大気汚染が深刻であるにも関わらず、マスク着用の習慣がないため、特に子どもの長期的な健康被害が懸念されています。こうした現状に鑑み、第1年次と第2年次の事業では、学校と地域コミュニティの災害対応能力の向上を目指し活動を実施してきました。

2018年度の実績：

これまでの成果を全市に広げ、防災の重要性をより多くの人に認知してもらうための活動（防災教材作成、キャンペーンの実施、市民防災活動推進センター（DRRCAP）の建設・整備）及び市民の防災対応能力向上のための実践的な研修を行いました。

キャンペーンには、当初計画の500名を上回る797名が参加し、クライメートスクールやコミュニティの活動紹介に加え、本事業で開発した防災アプリの紹介をしました。2019年5月7日現在、アプリには2100人以上がアクセスしています。また今年度は、NDRFと地域住民代表の計6名を本邦研修に招聘しており、日本の防災の紹介や防災の意義をキャンペーン参加者に伝える良い機会となりました。NDRFと共催した防災研修は516名が受講し、一部の市民の有志が研修後、防災をさらに多くの人々に伝えるべく「防災タスクフォース」を結成し、自主的に、防災啓発キャンペーンを実施しました。「防災タスクフォース」のこのような活動に敬意を表し、NDRFとSEEDS Asiaはこれらの活動を実践している市民13名を「市民防災大使- DRR Brand Ambassador」に任命しました。市民防災大使は、事業終了後も継続的に防災啓発の活動を続けており、バラナシの防災力向上に多大な貢献をしています。

DRRCAPは、一般の人々がバラナシの災害について学べる展示や心肺蘇生法等の体験学習ができるようになっており、バラナシ住民の災害対応能力が向上するための土台作りに貢献しました。また、センター開所式には、UP州の防災委員会（SDMA）副委員長（委員長はUP州知事）が来所し、NDRFとともに同センターが多くの人に利用してもらえるよう努力するとの言及がありました。

バングラデシュにおける都市部のコミュニティ防災力向上支援事業

防災リーダー研修の様子

北ダッカ市幹部による記者会見で発表された広報誌『Nagoria』第1号

- 期　　間： 2016年4月～2019年4月
- パートナー： 北ダッカ市
- 資金提供： JICA草の根技術協力事業
- 受益対象者： 北ダッカ市職員、住民、メディア関係者

背景・課題：

縫製業を中心に安定した成長を続けるバングラデシュでは、好調な経済成長の一方で、急激で無計画な都市化と人口増加により地震や火事、豪雨など、都市型災害のリスクが高まっています。防災法や災害規則、建築基準等の施策や、国や地方行政レベルでの災害対策本部の設置等は進められているものの、ダッカでは大きな災害の経験がないこともあり、住民の防災意識は非常に低く、特に地震災害については備えや対応のノウハウがないのが現状です。SEEDS Asiaは、住民が災害リスクを理解し、自助、共助の能力を身につけ災害から身を守れるよう、北ダッカ市を現地パートナーに、地域コミュニティの防災力向上を目指したコミュニティ防災事業を実施しています。

2018年度の実績：

昨年度、先駆的に防災研修を実施した５つのモデルコミュニティは、多発する火事への対策に取組んだり、人の集まるモスクで啓発リーフレットを配布するなど、それぞれの地域のニーズや課題に応じた活動を展開しています。今年度は、モデルコミュニティでの経験を踏まえ、防災活動を実施するコミュニティを増やし、ダッカに防災の輪を広げる活動を行いました。その結果、モデルコミュニティの活動に感化され参加を申し込んできたコミュニティも含め、さらに6つのコミュニティが活動を開始しました。SEEDS Asiaは、防災リーダー研修や、各コミュニティの活動支援に加え、それらのコミュニティ同士をつなぐネットワーク構築にも取組みました。有事の際に助け合える関係づくりを目的としていましたが、その過程において、コミュニティ同士の情報交換を促進させることで、意欲的に活動を発展させたり、新たな活動団体が誕生するなど、平時の地域活性化にも大いに貢献することができました。

また、北ダッカ市が計画する、市内5つのゾーンごとの災害対応チームの結成に向け、各部署に配属されている市職員への防災研修の支援をし、防災コミュニティリーダーとの意見交換の場を提供するなど、セクターの枠を超えた活動を実施しました。

さらに、昨年の本邦研修に参加した北ダッカ市職員がアクションプランに設定した、防災啓発を盛り込んだ市の広報誌の発行の実現に向けて、SEEDS Asiaは企画から発行まで、一連の作業をサポートしました。積極的な情報公開や公共サービスの紹介、各種課題についての啓発を行うことで、よりよい市民生活と意識の向上を目指したバングラデシュで初の市が刊行する広報誌“Nagoria(市民の意)”が7月に発行され、市民に大いに歓迎されました。改善を重ねた第2号の発行を経て、予算配分を獲得したことで、今後も継続して発行される予定です。さらに、ドラマ好きなバングラデシュの人々が楽しく学べるようドラマ仕立ての啓発ビデオを作成するなど、多角的なアプローチによる防災意識の向上を目指しました。

復興スタディツアー

＜日本（丹波）＞

丹波市の視察団に、新潟県内の中越地震メモリアル拠点をつなぐ「中越メモリアル回廊」の説明をする小沢集落の住民

丹波市スタディツアーの一環で山歩きをする学生

- 期　　間： 2017年11月～2020年3月
- パートナー： 丹波市
- 資金提供： 丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業
- 受益対象者： 丹波市、住民、訪問者

背景・課題：

丹波市は美味しい食べ物や美しい景色などを誇り、大阪や神戸といった大都市からの移動時間は1時間半程度と、都市部に近い中山間地域に位置します。しかし他の中山間地域と同様、人口の高齢化や過疎化が進んでおり、その課題解決の方法としてシティプロモーションの推進を決定しました。同市のシティプロモーションでは、単にUターンやIターンといった訪問者の定住を目指すのではなく、同市の魅力を発信して少しでも市内外のファンを増やすことを目指しています。その中でもSEEDS Asiaは「復興（防災）スタディツアー」枠で事業採択され、同市の市職員や住民による2014年豪雨災害への対応やその後の復旧・復興を国内外に発信し、防災をテーマに訪問者を増やすことを目指しています。

2018年度の実績：

スタディツアーを実施するにあたり、災害を経験した他の土地ではどのように外部の人を受け入れ交流をしているのかを学ぶために、丹波市役所職員や地域住民の方とともに、新潟県長岡市にて先進地視察訪問をしました。新潟県中越沖地震を経験した木篭（こごも）集落や木沢集落は、震災のすさまじさを語る地（震源／震央や、川の流れが変わったことで水没せざるを得なかった家々など）を案内したり、集落内で人を受け入れる施設や仕組みを持ったりすることで、今も多くの人が訪れ、交流が続いていることが明らかになりました。

先進地視察の学びを踏まえスタディツアーの受入も開始し、4つの大学・機関から合計22名の先生・大学生・研究者が丹波市を訪問して下さいました。体験学習を取り入れ、名産の黒豆の収穫や木材加工機械の使用、山歩きなど、体を動かしながら市内の防災・復興に取組んでいる方々と交流をしていただきました。参加者は「食べ物が美味しい！」、「年齢を重ねても生き生きと活躍し、森林管理に携わっていることが印象的だった。都市部の高齢者も丹波市に通って交流ができたらいいのに」、「『自然界に限界はない』という講義中の言葉が心に響いた。1000年以上地震の影響を受けていないふるさとでも、災害に対する備えを呼びかけたいと思った」などの感想を聞かせてくれました。受け入れをして下さった地域の方々も、「これからもたくさんの人に丹波市に来てもらい、丹波市で一緒に安全なまちをつくっていきたい」、「訪問者は丹波市のいいところを積極的に見つけてくれるので嬉しい」と、さらなる受け入れに積極的な意欲を見せています。

2018年度　講師実績一覧

日付	主催者	イベントタイトル：講演内容
2018/4/9	JICA関西	JICA課題別研修「防災意識の啓発 (A) 」コース： 海外におけるコミュニティ防災
2018/6/3	公益財団法人国際交通安全学会 IATSSフォーラム	「防災・減災」「復興まちづくり」セミナー： NGO による地域密着型の復興支援　－ミャンマーの事例から－
2018/6/5	神戸学院大学	現代社会学部　社会貢献論II/社会防災特別講義Ⅳ (連携講座)： アジアで防災のリアル―NGO職員としてアジアの防災に関わるということ―
2018/8/19	丹波市	復興シンポジウム 再び“あの日”へ、そして“明日” へ
2018/9/17～21	アクサ生命株式会社・ 日本ユネスコ協会連盟	アクサユネスコ減災教育教員研修会
2018/10/7	公益財団法人国際交通安全学会 IATSSフォーラム	「防災・減災」「復興まちづくり」セミナー： NGO による地域密着型の復興支援　－ミャンマーの事例から－
2018/10/9	公益財団法人PHD協会	PHD協会本邦研修： 神戸から伝えたい アジアにおける防災の取り組み　－ミャンマーを事例に
2018/11/2	神戸市立上野中学校	国際協力とは
2018/11/14	JICA関西	JICA課題別研修「防災意識の啓発 (A) 」コース： Community Based DRR- Challnges of NGO
2018/11/22	宮城県教育委員会 東北大学災害科学国際研究所	未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム： 国際協力NGOによる防災の取り組み
2018/11/24	La Shicu社	ペットと避難どうする？ワークショップセミナー in 加古川： 災害から自分と家族を守るために　－知っておくこと、やっておくこと－
2018/11/26	丹波市立青垣小学校	人権学習：　丹波市「心つなぐ」プロジェクト－ありがとうを広げていこう－
2019/2/23	アクサ生命株式会社・ 日本ユネスコ協会連盟	アクサユネスコ減災教育教員研修会（活動報告会）： アジアから学ぶ減災教育
2019/3/6	ダイワハウス工業株式会社	第15回ステークホルダーミーティング：まちの価値を、未来へ －人と人、人と地域がつながり、未来へ続いていくまちづくり－
2019/3/15	京都東ロータリークラブ	2019国際奉仕フォーラム： 災害に負けない国づくりに向けて－ミャンマーに百葉箱を－

写真1．IATSSフォーラム：ASEANメンバー国の約20名の政府関係者/起業家を対象としたリーダー育成プログラムにて、ミャンマーでのサイクロン・ナルギスからの復興や防災の取り組みや課題についての講義

写真2．丹波市立青垣小学校：6年生を対象に丹波市から寄贈された学校家具や黒板が届けられたミャンマーについて学ぶ特別授業

写真3．アクサユネスコ協会減災教育プログラム：日本全国から選抜された学校教員を対象とした減災・防災教育研修にて、SEEDS Asiaの学校防災教育の取り組みを紹介

2018年度　成果物一覧

発行	タイトル	言語	発行地
冊子			
SEEDS Asia/ Dhaka North City Corporation	"Durjoge Amraa" DRR Community Manual	ベンガル語	Dhaka, Bangladesh
SEEDS Asia/ Dhaka North City Corporation	Nagar Pratyasha	英・ベンガル語	Dhaka, Bangladesh
SEEDS Asia	DRR Calender in Varanasi	英・ヒンディ語	Varanasi, India
SEEDS Asia	Society and Disaster Risk Reduction : Reducing vulnerabilities through self-help, and mutual help in Varanasi	英	Varanasi, India
動画			
SEEDS Asia	Safe Schools, Safe Societies	英・ヒンディ語	Varanasi, India
SEEDS Asia/ Dhaka North City Corporation	Capacity Building for Disaster Risk Reduction in Urban Areas of Bangladesh	ベンガル語	Dhaka, Bangladesh
アプリ			
SEEDS Asia	Be Safe - Disaster Safety Game	英	Varanasi, India
論文			
Otsuyama. K., Aung. S. , Norio. M	Adaptive strategies and transformation for community recovery – A case study of villages in Hinthada, Ayeyarwady Region, Myanmar	英	International Journal of Disaster Risk Reduction Volume 34, March 2019, Pages 75-93

写真1

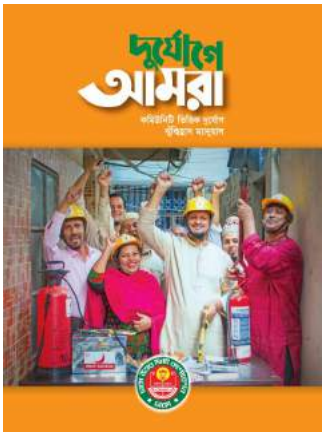


写真2

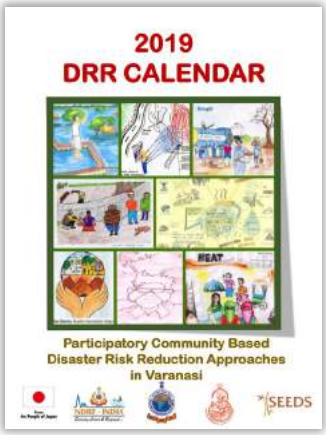


写真3

写真1.　Durjoge Amraa" DRR Community manual：住民のためのコミュニティ防災の手引き

写真2.　DRR Calender in Varanasi:　バラナシでの気象データを元に、各月の気象の特徴、対策が学べるカレンダー

写真3.　Be Safe - Disaster Safety Game：災害についての知識や、それらに対し、個人、家庭、地域でどのような対策ができるかが学べるウェブアプリを利用した防災教育ツール

特定非営利活動法人SEEDS Asia

事務局

〒658-0072 兵庫県神戸市東灘区岡本3-11-30-302

Tel ： 078-766-9412

Fax： 078-766-9413

Email：rep@seedsasia.org

Website：http://www.seedsasia.org
Facebook：https://www.facebook.com/SEEDS-Asia-206338119398923/